

●芸術音楽/古典音楽

◆芸術音楽とは

高度に様式化・洗練化された音楽。演奏や鑑賞に一定レベル以上の技術や知識が要求され、そのための経験や修練を必要とする(従って大衆的でない)ものが多い。大抵は社会的な支配者階級の支持を受け、その保護のもとに洗練化が進められた結果出来上がったものと見られる。狭義には、西洋近代の「芸術」概念に則った音楽つまり「クラシック音楽」とその延長上にある「現代音楽」をさすが、西洋近代的観点から「芸術的」と見なせるような他文化の音楽も芸術音楽と呼ぶことがある。ある程度の伝統を持つ場合は「古典音楽」とも呼ばれる。

◆「芸術」とは

「芸術」という言葉の使われ方には広義と狭義の二通りがある。

「芸術音楽」という場合の「芸術」は、狭義の「芸術」概念

(参考:文学における「芥川賞」と「直木賞」の違い)

a)「狭義の芸術」:西洋近代の概念が西洋の影響力とともに世界に広がる

art の原義は「技術」

art(英仏) ← ars(羅): 技術、ギリシャ語のテクネー-τεχνηの訳。Kunst(独) も同義

近代(西洋近代)になって技術としての art の一部に特別な意味を与えるようになったのが「狭義の芸術」

b)近代的「芸術」の特徴

1)「美」のみを目的とする:「芸術のための芸術 l'art pour l'art」

「実用性がないからこそ価値がある」

教養(Bildung)としての芸術

2)芸術諸ジャンルの分化が顕著

それぞれのジャンル固有の美を追求

(その一方で他ジャンルへの憧れや総合への欲求もおこる)

3)コミュニケーションの単一方向性

芸術家の自己表現としての芸術

「作り手」と「受け手」の階級差?

◆芸術音楽の特徴

1)支配者階級(権力)の支持と保護

例 1: 日本の雅楽、能

例 2: インドやペルシャの古典音楽

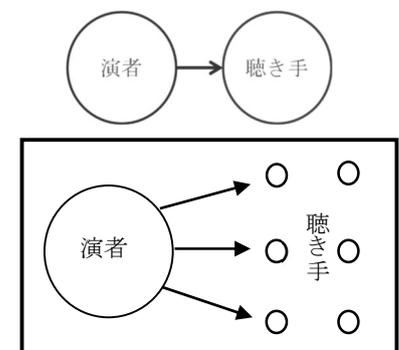
例 3: 西洋の教会音楽・宮廷音楽

2)高度に様式化・洗練化

演奏や鑑賞に技術や知識を要求 →大衆的でない

しかし知識や経験があればあるほど楽しみが深まる

近代的芸術のコミュニケーション回路



聴き手が複数であっても演者と聴き手の間で1対1の関係は保たれる。聴き手どうしのコミュニケーションは一般に「ないこと」にされる。